

1 単元 モンゴルの襲来と日本

2 目標

- 鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開，経済の発達と社会の変化，室町文化に対する関心を高め，意欲的に学習しようとする。
(社会的な事象への関心・意欲・態度)
- モンゴルの襲来や日明貿易が日本の社会に与えた影響について，多面的・多角的に考察することができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- モンゴル軍の特徴や幕府軍の戦いに関する文献資料や絵画資料を活用することができる。
(資料活用の技能)
- モンゴルの襲来から鎌倉幕府の滅亡までの展開を理解することができる。
(知識・理解)

3 生徒の実態と指導に当たって

〈実態調査〉

(平成*年*月*日 第1学年*組 *名 実施)

	項目	十分にできている。	概ねできている。	できていない。
既習	雨温図や写真資料を活用しながら，世界各地の人々の生活と日本の生活との違いを適切にノートにまとめることができる。	*名	*名	*名
	地理的事象を多面的・多角的に考察し，表現することができる。	*名	*名	*名
未習	調べたことをもとに本当はどうだったのかを考察し，検証したことを表現できる。	*名	*名	*名
	歴史上の問題場面について，残された課題を解決するにはどのようなことが考えられるか論述できる。	*名	*名	*名

本学級では，1学期の単元「世界各地の人々の生活と環境」において，個人調べからグループ発表という学習形態をとった。その中で，資料をもとに，説得力のある発表の仕方を身に付けた。さらに，それらの学習を通して，資料を活用しながら自分なりの方法でノートにまとめていく力を身に付けた。しかし，発表の内容を分析してみると，課題追究が不十分であったり，自分と異なる考えについての反論ができるような準備が整わなかったりなど，相手を十分理解させるような内容には至っていないことがわかった。

そこで本単元では，適切な課題を設けて行う学習の充実と，生徒の主体的な学習を促すような展開を工夫することで，「資料の選択や活用の技能を高め，根拠をはっきりさせて自分の考えを論述する力」の育成をねらう。

指導に当たっては第一次で，元寇や鎌倉幕府滅亡に関する基礎的・基本的な知識・理解の定着を図ることで，興味・関心を高め，本単元の目指す姿をつかんで学習を進められるようにする。その際，「暴風雨にあって大損害を受け，引き上げました。」という教科書の記述に着目し，「暴風雨がなければ本当に幕府軍は敗れたのか。」，「暴風雨がなくても，幕府軍は元軍に勝てたのではないか。」という課題を投げかけ，生徒の考えを揺さぶりたい。また，元寇後まもなく幕府が滅んだが，「元寇がなくても幕府は滅んだのではないか。」という課題で既習内容をもう一度振り返る活動を設定する。以上，二つの課題設定により「この問題について，ぜひ調べ，考えたい。」という思いを高める。

第二次では，グループごとに自分たちで決めたテーマに対する意見を出し合い，提案内容や根拠，予想される質問や反論についてまとめるようにする。この場面において「協同タイム」を取り入れ，友達と考えを交流させながら，より説得力のある論述へと高めていけるようにする。途中，グループのメンバーを代えたジグゾー型学習による交流をすることで，より効果的な「協同タイム」となるよう支援したい。発表場面では，「なぜ」「どうして」そう言えるのかを根拠をはっきりさせて話すように助言する。反論についても，資料に基づくものであるよう念を押し，思い込みや理由のない反対によるものとならないよう支援することで発表の質を高めていきたい。さらに，今後の社会科学習方法の確立をねらいたい。

4 指導計画と評価規準（3時間取り扱い）

- 第一次 単元全体を見通した学習計画を立てる。 ----- 1時間
 モンゴルの襲来が日本に与えた影響や鎌倉幕府滅亡までの経緯について，根拠をはっきりさせて自分の考えを発表しよう。
- 第二次 テーマを決め，調べたことを発表し合い，自分の考えをまとめ発表する。 ----- 2時間

時	学習活動	評価規準
1	・グループごとにテーマを決める。 ・必要な資料を収集・選択し発表資料を作成する。 ・発表内容と予想される質問や反論にどう対処するか準備する。	【知・理】 モンゴルの襲来から鎌倉幕府の滅亡までの展開を理解している。 (ノート) 【関・意・態】 モンゴルの襲来から鎌倉幕府の滅亡までの経緯を意欲的に調べている。 (発表・ノート)
② 本時	・グループ内で発表し合い，発表資料や発表内容を検討し，強化する。 ・根拠をはっきりさせて発表する。	【資料活用】 モンゴルの襲来が武家社会に与えた影響について資料を活用してまとめている。 (発表資料) 【思・判】 モンゴルの襲来から鎌倉幕府の滅亡までの展開を多面的・多角的に考察している。 (発表・ノート)

5 本時の学習

- (1) 目標 資料をもとに，根拠をはっきりさせて自分の考えを発表することができる。
- (2) 本時における「協同タイム」※展開内の太字は「協同タイム」にかかわる手立てを表す。
自分の発表内容に説得力をもたせるにはどのようにすればよいか，という課題を協同して解決していくことをねらいとする。初めに違う考え同士でグループを組み，その後同じ考えの者同士でグループを組み直し，内容を検討し合う。そこで互いに

